

アンケート課題のまとめ（詳細版）

課題整理方針

P67（一般・問 23）及び P74（高校生・問 11）の「満足・重要度」において、満足度が低い（平均以下）、重要度が高い（平均以上）の 8 項目を町民の課題として捉え、それらについて、アンケート調査結果から以下のとおり整理した。

1. 医療・福祉体制の充実

医療機関の充実に関して、一般・高校生ともに満足度が低いことから、若年から高齢者まで安心して生活できる医療体制が求められている。また、障がい者が日常生活または社会生活を営むための支援や、高齢化が進む中で、医療や介護の支援や、福祉制度の充実も必要とされている。

【参照設問】

- 「若年層定住促進のために必要なこと」 P19（一般・問 4）
「働く場所の確保」が第 1 位（73.2%）、「買い物の利便性」が第 2 位（47.9%）、
「医療機関の充実」が第 3 位（34.4%）。
- 「満足度・重要度」 P67（一般・問 23） P74（高校生・問 11）
「障がい者支援サービス」は、高校生が「満足度」、「重要度」とともに「低」となっている。

項目	一般		高校生	
	満足度	重要度	満足度	重要度
妊娠・出産・育児の環境	低	高	低	高
医療機関の充実	低	高	低	高
障がい者支援サービス	低	高	低	低

- 自由記述引用（抜粋）
 - 夜間の病院システム当番医が役に立たず、町外の病院に飛ばされるのを改善していただきたい。（30～34 歳/男性）
 - 医療機関の充実（子どもの医療費がかからないのはありがたいが、出産する病院はない、小児科もないというのは子育てしていく上で不安しかないと思います）。働く場所もないし、娯楽もないので、若い世代は出ていくと思います。（45～49 歳/女性）
 - 世界的にも類を見ないスピードで高齢化が進んできた日本。その中でも最先端に行く身延町でお願いしたいこと。近隣町の住民をも引きつける老人の介護、病院、いこいの場をすることにより、その老人を見守るための若い人の勤務先を確保することだと思います。峡南地域の医療体制のこともお願いします。歴史ある飯富病院の診療所化は仕方ないとしても、どうか有床診療所にしてもらえないでしょうか。（75～79 歳/男性）

2. 鳥獣害対策、防災対策などによる生活環境や治安の維持

鳥獣害対策については、農作物や生活への被害が深刻化しており、個人での対応には限界があるとの声が多くある。耕作放棄地の拡大も被害を助長していることから、日常生活の安心を守るため、治安対策とあわせて地域全体で取り組む仕組みづくりが求められている。

また、防災面では、大規模災害への備えとして拠点施設や避難環境の整備を求める意見がある。

【参照設問】

- 「満足度・重要度」 P67（一般・問 23） P74（高校生・問 11）

「防犯対策・治安のよさ」は、高校生が「満足度」、「重要度」とともに「高」となっている。

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
防犯対策・治安のよさ	低	高	高	高

- 自由記述引用（抜粋）

- とにかく鳥獣害の対策をして欲しい。個人で対応するのはもう限界です。農作業をやる気が大いに削がれ気が滅入る。マイナスでしか無い。(45～49 歳/男性)
- 現在の自然環境を考えると、防災面等安心して生活することは、難しいと思う。いつでも避難ができ、年老いても安全、安心に生活ができる環境を整えて欲しい。子育て支援には力を入れているが、高齢者にも優しさを提供して欲しい。(65～69 歳/男性)
- 防犯カメラの設置をし、防犯対策してほしい。散歩をしようとしても、猿・鹿がいて安心して子供と散歩することもできない。車を運転していれば鹿が飛び出してくる、危うく事故を起こしそうになった。防災無線で熊のことを言っているが、気を付けてくださいというが、遭遇した時にどのような対策をとればいいのか発信してほしい（広報等で）。(60～64 歳/性別無回答)

3. 妊娠・出産・育児の環境

身延町における妊娠・出産・育児の環境については、妊娠・出産に不安を抱く声があり、安心して出産できる体制の整備が求められている。また、小児科についても診療日や時間が限られ、急な受診の際に町外まで出向かなければならない現状があるため、子育て世代にとって大きな課題となっている。

町の子育て支援策は金銭面やサポート体制において一定の評価を得ているが、若い夫婦の定住や人口流入には十分に結びついていないとの意見もある。そのため、雇用の場の確保や買い物の利便性の向上、医療体制の充実、学びたいことが学べる機会の向上などをあわせて、総合的に子育てしやすい環境を整えていくことが求められている。

【参照設問】

- 「若年層定住促進のために必要なこと」 P19（一般・問4）
「働く場所の確保」が第1位（73.2%）、「買い物の利便性」が第2位（47.9%）、「医療機関の充実」が第3位（34.4%）、「子育て支援や教育環境の充実」が第4位（33.7%）。
- 「結婚・出産・子育てをする上で、支障になるのは特にどんなことか」 P33（一般・問9）
「不安定な収入などの経済的理由」が第1位（50.1%）、「子育て・教育費」が第2位（28.9%）、「あなた自身または配偶者の仕事の事情」が第3位（21.5%）。
- 「子供を持つことについてどう思うか」 P37（高校生・問6）
「家族の絆や幸福感を持てる」が第1位（67.9%）、「子育てをとおして人間的に成長できる」が第2位（39.3%）。
- 「満足度・重要度」 P67（一般・問23） P74（高校生・問11）
「学びたいことが学べる機会」は、一般が「満足度」、「重要度」とともに「低」となっている。

項目	一般		高校生	
	満足度	重要度	満足度	重要度
医療機関の充実	低	高	低	高
妊娠・出産・育児の環境	低	高	低	高
学びたいことが学べる機会	低	低	低	高

- 自由記述引用（抜粋）
 - 子育て、介護、交通など、現状を維持もしくは今後より手厚くしていく必要がある部分があると思いますが、それ以上に若者が身延で働くことのできる環境や、働きたいと思える環境づくりに力を入れてもらえたらと思います。（高校3年/男性）
 - 町内の医療機関に産婦人科があれば、身延町で産み育てたいと思う人も増えるのではないかと思います。（30～34歳/女性）
 - 子育て支援に今も力を入れてくださっていて、金銭的、サポート体制もとても助かっています。今後も続けていって欲しいです。若い世代は今後さらに厳しい社会を生きていかなければならないと思います。身延町がほっとでき

る場所であってほしいです。(35～39 歳/女性)

- 子育て世代にとって、子どもの医療機関が整っていないことは、とても不安材料です。町内の小児科(また隣の富士川町も)は、診療日や時間が限定的です。急な発熱や風邪のとき、現状南アルプス市まで連れて行かなければならない事が多いです。これは、解決しないと、安心して子育てはできないと思います。(40～44 歳/女性)

4. 買い物の利便性

日常の買い物や娯楽の場が少なく、不便さを感じているとの声がある。また、コンビニや育児用品を扱う店舗が少ないことから、特に子育て世代や高齢者にとっては生活のしづらさにつながっている面がある。こうした状況を踏まえると、買い物の利便性を高めるためには、生活を支える店舗の充実に加え、世代ごとのニーズに合った商業施設やサービスを検討していくことが求められる。

【参照設問】

- 「将来的には身延町に戻って居住したいと思うか」 P13 (一般・問2-2)
「身延町に戻って居住することは考えていない」が第1位(54.9%)であり、その理由に「買い物が不便」と記述が多くある。
- 「身延町外に移りたい理由」 P15 (高校生・問2-2)
「交通不便だから」が第1位(63.3%)、「希望する就職先がないから」が第2位(56.7%)、「遊ぶ場所などが少ないから」が第3位(53.3%)、「都会に興味があるから」が第4位(33.3%)、「買い物をしたい店が少ないから」が第5位(26.7%)。
- 「満足度・重要度」 P67 (一般・問23) P74 (高校生・問11)

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
買い物の利便性	低	高	低	高

- 自由記述引用(抜粋)
 - 過疎化を止めることが最優先。地理的不利を補うだけの魅力が町にない為、過疎化が進んでいるので、魅力的にすることは難しいと思います。大規模工場や商業施設等の誘致で人を増やす方法を考えてほうが良いと思います。(50～54 歳/男性)
 - 育児用品(特に服や靴など)を取り扱っているお店がほぼないことが、身延町をどんどん限界集落にしていくのだと思う。ファミリーマートを近くにつくってほしい。南部でも梅平でも。(20～24 歳/女性)
 - コンビニなど便利な商業施設を増やす。(高校1年/男性)

5. 公共機関での移動と道路網の整備

自家用車依存が強く、鉄道やバスの本数や時間が合わず、通勤・通学や生活で移動が不便との声が多くあった。また、道路網については、高齢化に伴い地域での維持管理作業が負担になっているとの意見や、広域的な交通インフラの整備を望む声もある。こうしたことから、日常生活や通勤通学をより安心して行えるようにするため、公共交通の利便性向上と道路環境の整備をバランスよく進めていくことが求められる。

【参照設問】

- 「将来的には身延町に戻って居住したいと思うか」 P13（一般・問2－2）
「身延町に戻って居住することは考えていない」が第1位（54.9%）であり、その理由に「交通が不便」と記述が多くある。
- 身延町外に移りやすい理由」 P15（高校生・問2－2）
「交通が不便だから」が第1位（63.3%）。
- 「若年層定住促進のために必要なこと」 P19（一般・問4）
「働く場所の確保」が第1位（73.2%）、「買い物の利便性」が第2位（47.9%）、
「医療機関の充実」が第3位（34.4%）、「子育て支援や教育環境の充実」が第4位（33.7%）、「周辺都市へのアクセス」が第5位（23.8%）。
- 「通勤・通学の主な手段」 P26（一般・問6－1）
「自家用車」が第1位（88.8%）。
- 「通学の主な手段」 P27（高校生・問1－1）
「身延線」が第1位（73.8%）。
- 「普通、町の集合タクシーを利用しているか」 P53（一般・問18）
「利用していない」が第1位（95.2%）。
- 「町の集合タクシーを利用していない理由」 P54（一般・問18－1）
「移動手段がある（自分で運転・家族送迎など）」が第1位（92.8%）。
- 「満足度・重要度」 P67（一般・問23） P74（高校生・問11）
「道路網の整備」は、高校生が「満足度」、「重要度」とともに「低」となっている。

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
公共交通機関での移動	低	高	低	高
道路網の整備	低	高	低	低

- 自由記述引用（抜粋）
 - 母が乗り合いタクシーを利用させてもらって、助かっています。今後も継続して行ってほしいです。（45～49歳/女性）
 - 身延線について、雨の時に鰍沢口駅を境にして電車が止まり、普段の電車でも鰍沢口止まりが多いのが不便に感じるので、何か対策をしてほしい。（高校2年/男性）
 - 交通インフラの整備。他町への交通手段は自家用車が便利。公共交通手段がほばない。身延線のみであり、便数が少なく不便である。負の連鎖。デマン

ド交通の移動手段の多様化。最低でも富士川町くらいまで伸ばしてほしい。
(65～69 歳/男性)

- 老人が増えていくなか、道づくりなど組での仕事をなるべくなくして欲しい。
ほしい。草刈りなどはコンクリートにしてほしい。(45～49 歳/女性)

6. やりたい仕事の見つけやすさと若者の活躍しやすさ

町内の仕事の選択肢が限られているとの声があり、特に若い世代にとって魅力的な職種が少ないことが課題である。また、「将来的に身延町に戻って居住することは考えていない」と答えた人が半数を超えており、町外に出た若者が「戻ってきたい」と思えるような雇用環境や暮らしやすさを整えることが大きな課題となっている。

一方で、「若者層の定住促進のために必要なこと」としては「働く場所の確保」が最も多く、安定した雇用の場を求める声が強くなる。高校生の希望する職業としては「公務員」、「医療・福祉」、「先生」、「一般事務」と続いており、安定性や地域に根ざした職業に関心を持つ傾向が見られる。

こうしたことから、人口流出を防ぎ、若者が活躍し定住できる町を目指すためには、働く場の確保や多様な職種の創出、起業への支援をすることが求められている。

【参照設問】

- 「将来的には身延町に戻って居住したいと思うか」 P13（一般・問2－2）
「身延町に戻って居住することは考えていない」が第1位（54.9%）。
- 「身延町外に移りたい理由」 P15（高校生・問2－2）
「交通が不便だから」が第1位（63.3%）、「希望する就職先がないから」が第2位（56.7%）。
- 「若者層の定住促進のためにどのようなことが必要となるか」 P19（一般・問4）
「働く場所の確保」が第1位（73.2%）。
- 「身延町外を働く理由」 P31（一般・問7－2）
「町内には仕事がないから」が第1位（40.4%）。
- 「将来どのような職業に就きたいと思うか」 P32（高校生・問3）
「公務員」が第1位（23.8%）、「医療・福祉」、「学校などの先生」が第2位（19.0%）、
「一般事務」が第3位（19.0%）。
- 「満足度・重要度」 P67（一般・問23） P74（高校生・問11）
「新たな事に挑戦・成長する機会」は、一般が「満足度」、「重要度」とともに「低」となっている。

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
やりたい仕事の見つけやすさ	低	高	低	高
若者の活躍しやすさ	低	高	低	高
新たな事に挑戦・成長する機会	低	低	低	高

- 自由記述引用（抜粋）
 - 子育て、介護、交通など、現状を維持もしくは今後より手厚くしていく必要がある部分があると思いますが、それ以上に若者が身延で働くことのできる環境や、働きたいと思える環境づくりに力を入れてもらえたらと思います。（高校3年/男性）（再掲）
 - 結論から言うと、身延町内の就職の職種を増やして欲しい。町内だと福祉系や農業、製造業もしくは建設業が目立つが、若い人にとって魅力的な職種とは言いにくい。（20～24歳/男性）
 - 学生や若者が過ごしやすい商業施設やカフェなどがあるといきいき過ごせる。また、そういった施設で働くことができ、正社員やアルバイトとして活躍できると思う。（20～24歳/女性）
 - 介護・福祉人材の確保と定着支援として、地元高校や専門学校と連携し進路相談や職場体験を行い、Uターン就職を後押ししてはどうか。（60～64歳/男性）

7. 産業振興

企業や大規模な商業施設の誘致や農業や地場産業の活性化、観光資源の活用など幅広い意見があった。企業や大規模な商業施設の誘致については、中部横断自動車道に期待する声も多くみられる。農業では、耕作放棄地の解消などを通じて、長く続けられる仕組みづくりが求められている。観光については、既存の観光資源である久遠寺や下部温泉、西嶋和紙などを活かしながら、その魅力をより多くの人に伝えを工夫するが必要との意見がある。さらに、地域資源を活用した新しい産業づくりや、グルメやイベントによるにぎわいを望む声もあり、既存産業と新しい取組みをバランスよく組み合わせることが求められている。

こうした中で、中部横断自動車道 IC の土地利用については、「道の駅や休憩施設の整備」「防災拠点の整備」「工場や物流拠点の確保」「商業施設の誘致」など、住民の関心も高く、多様な活用方法が望まれており働く場の確保を進めることを求められている。

- 「身延町外に移りたい理由」 P15（高校生・問2-2）
「交通が不便だから」が第1位（63.3%）、「希望する就職先がないから」が第2位（56.7%）。
- 「若者層の定住促進のためにどのようなことが必要となるか」 P19（一般・問4）
「働く場所の確保」が第1位（73.2%）。
- 「身延町外で働く理由」 P31（一般・問7-2）
「町内には仕事がないから（選べないから）」が第1位（40.4%）。
- 「結婚・出産・子育てをする上で、支障になるのは特にどのような事だと思うか」 P33（一般・問9）
「不安定な収入などの経済的理由」が第1位（50.1%）。
- 「身延山インターチェンジ付近についてどのような土地利用が望ましいか」 P47（一般・問15）

「道の駅や休憩施設の整備」が第1位(38.2%)、「災害時の一時避難施設・防災拠点の整備」が第2位(33.2%)、「工場や物流拠点の確保と誘致」が第3位(26.9%)、「大規模な商業施設の確保と誘致」が第4位(22.8%)。

- 「下部温泉早川インターチェンジ付近についてどのような土地利用が望ましいか」 P49 (一般・問16)

「災害時の一時避難施設・防災拠点の整備」が第1位(32.4%)、「工場や物流拠点の確保と誘致」が第2位(31.9%)、「道の駅や休憩施設の整備」が第3位(29.3%)、「現状の農地や住環境を維持していく」が第4位(23.4%)、「大規模な商業施設の確保と誘致」が第5位(22.1%)。

- 「中富インターチェンジ付近についてはどのような土地利用が望ましいか」 P51 (一般・問17)

「災害時の一時避難施設・防災拠点の整備」が第1位(30.4%)、「現状の農地や住環境を維持していく」が第2位(28.4%)、「工場や物流拠点の確保と誘致」が第3位(27.3%)、「道の駅や休憩施設の整備」が第4位(22.2%)、「住宅地や定住促進施設」が第5位(21.6%)、「大規模な商業施設の確保と誘致」が第6位(19.5%)。

- 「満足度・重要度」 P67 (一般・問23) P74 (高校生・問11)

「新たな事に挑戦・成長する機会」と「地場産業活性化・PR」は、一般が「満足度」、「重要度」とともに「低」となっている。

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
やりたい仕事の見つけやすさ	低	高	低	高
若者の活躍しやすさ	低	高	低	高
新たな事に挑戦・成長する機会	低	低	低	高
地場産業活性化・PR	低	低	低	高

- 自由記述引用(抜粋)

- 特産品などを使ってもっと町外にアピールする。(高校3年/男性)
- 身延町にしかないものを設立し、身延町にしかない魅力を作る。(高校3年/男性)
- 地場産業の開発や新しい観光地の設置。今ある地域性を見直しで新しい取り組みを考える。(60~64歳/男性)
- 観光や流行などの目先の利益に飛びつかないこと。企業誘致という昭和の発想からの脱却。新しい産業を企画し、企業に売り込んで共同起業をするような発想を期待したい。(55~59歳/男性)
- 自然豊かな土地ですので、観光地として他県から来やすい環境、発信をしていく必要がある。(35~39歳/男性)
- 町内の飲食店を巻き込んだB級グルメの開発。また、クラフトパークでの屋台出店などイベントでのにぎわいをつくってはどうか。(45~49歳/男性)

8. 環境への取組み・地域活動への参加

環境や地域活動については、ごみ回収やリサイクルの利便性向上や、道路や景観の維持管理を求める声がある。町全体での美化活動や自然を守る取組みに関心を持つ住民も多く、暮らしやすい環境を求めている。さらに、空き家や土地の活用など、住まいと資源の使い方も大きな課題となっている。

地域活動への参加については、参加意識に差がある状況がうかがえる。

今後は空き家の利活用や土地の再生といった住環境を整備することともに、地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要である。

- 「今後、定住を促進するためにはどのような住宅施策が必要だと思うか」 P21（一般・問5）

「空き家の利活用」が第1位（37.9%）。

- 「土地利用（農地・宅地・道路などの土地の現状）についてどんな問題があると思うか」 P46（一般・問14）

「空き家や空き地などが増えている」が第1位（80.7%）、「農地等の荒廃が目立つ」が第2位（61.6%）、「道路・水路等の荒廃が目立つ」が第3位（30.0%）。

- 「あなたは地域活動や各種団体・サークル等の活動にどの程度参加しているのか」 P56（一般・問19）

「なるべく参加するようにしている」が第1位（27.2%）、「活動に一切参加していない」が第2位（25.4%）、「どうしても参加しなければならないときだけ参加している」が第3位（15.9%）。

- 「満足度・重要度」 P67（一般・問23） P74（高校生・問11）

「環境への取組み」は、一般が「満足度」が「高」、「重要度」が「低」となっている。

	一般		高校生	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度
環境への取組み	高	低	低	高

- 自由記述引用（抜粋）

- ごみの回収が少なすぎる。粗大ごみも年に2回しか回収がなく、直接持ち込むしかない。もう少し便利になると暮らしやすい。（35～39歳/男性）
- 道路わきの雑草等、景観の邪魔になる物のこまめな手入れ。（35～39歳/男性）
- 小中学校などで地域についてもっと知る学習をしてみる。（高校1年/女性）
- 地域でのお祭りが減っているので、いくつかの地区合同のお祭りを開催する。（高校2年/男性）

9. クロス集計より

以下の設問にクロス集計等を実施した。その結果として、明らかに差があると見られた項目や、P18 以降に示した幸福度、満足度、重要度などの項目については、黄色マーカーで示している。

- 現在の身延町は住みやすいか（SA）
 - ＜住みやすい＞（住みやすい+どちらかという住みやすい）と＜住みにくい＞（どちらかという住みにくい+住みにくい）とし、「わからない」「無回答」を除いて集計した結果は以下のとおりとなった。
 - 【性別】＜住みやすい＞が男性は 53.3%、女性は 52.9%と、男性・女性ともにおおむね同じ傾向であった
 - 【年齢別】19 歳未満は＜住みやすい＞が 67.7%で最も高い結果となった。一方で 30 歳代は＜住みにくい＞が 53.0%と全年齢層の中で最も高くなっている。50 歳以降は、年齢が上がるにつれて＜住みやすい＞と回答する割合が高くなっている。
なお、40 歳代は一般的に「住みにくい」と答える割合が高い傾向があるが、本町の場合は、＜住みやすい＞が 55.6%と高くなっている。
 - 【職業別】農林業で＜住みやすい＞が 59.4%と最も高くなっている。一方、医療・福祉では＜住みにくい＞が 54.7%と最も高く、5 割を超えている。
 - 【居住地区別】住んでいる地区によって住みやすさ、住みづらさに差が見られる。＜住みやすい＞割合が 6 割以上と高いのは「古閑（62.9%）」「西嶋（61.1%）」「曙（64.3%）」「原（65.2%）」「下山（63.4%）」の 5 地区で、4 割以下は「下部（49.4%）」「久那土（41.4%）」「静川（49.6%）」「身延（45.8%）」「豊岡（47.1%）」の 5 地区であった。
 - 【居住年数別】5 年以上 10 年未満で＜住みやすい＞と回答する割合が最も高く 62.0%となっている。また、20 年以上では＜住みやすい＞は 52.7%だった。
- これからも身延町に住み続けたいと思うか。
 - 【性別】男性は「住み続けたい」55.7%で、女性 50.0%より高め。
 - 【年齢別】年代ごとに差が見られる。50 歳代を除く、20 歳代以降は年齢が上がるにつれて「住み続けたい」割合が増え、地元定着意識が高まる傾向にある。一方、50 歳代は「住み続けたい」45.2%とやや低い。
 - 【居住地区別】では、「古閑」69.2%、「大須成」72.7%で「住み続けたい」が高い。
 - 【居住年数別】居住年数ごとに差が見られる。20 年以上住んでいる人では「住み続けたい」が 55.1%と最も高い。一方で、「1 年以上 5 年未満」や「10 年以上 20 年未満」は 3 割台となっており、必ずしも居住年数の長さが「住み続けたい」という意向に直結しているわけではないことが分かる。

- 【高校生】男女別では「町外に移りたい」は男女とも 35.7%である。「わからない」は男性 42.9%、女性 38.1%と高く、将来の進学や就職によって考えが変わる可能性がある。学年別では、学年が上がるにつれて、「今の場所に住み続けたい」がやや増加する傾向が見られる。
- 将来的には身延町に戻って居住したいと思うか
 - 【性別】男性は 4.9%、女性は 1.5%より、男性の方がやや帰郷意欲が高い傾向にあるが、女性の 60.4%が「戻らない」と回答しており、若年女性の定住促進が大きな課題である。
 - 【年齢別】20 歳代以上のすべての年代において、「身延町に戻って居住することとは考えていない」と回答した割合は5割以上である。また同様に 20 歳代以上のすべての年代で「どちらとも言えない」が3割以上を占めている。「身延町に戻って居住したい」との割合が最も高かったのは 19 歳未満で 10.0%、次点は 30 歳代で 7.9%にとどまっている。
 - 【地域別】「下部」「久那土」「古関」「原」で 60.0%以上が「身延町に戻って居住することとは考えていない」と回答している。また「西嶋」「豊岡」は 50.0%以上が「どちらとも言えない」と回答しており、地域によって考え方に違いがみられる。
- 高校生：身延町外に移りたい理由
 - 【性別】「就職先の少なさ」が男性 73.3%、女性 40.0%と男性が働く場所の不足をより強く感じている。一方で、「買い物したい店が少ないから」は男性 13.3%、女性 40.0%と、男女で不便とを感じる要素が異なることがうかがえる。また、「都会に興味がある」全体 33.3%という回答も一定数あり、都市的な環境への憧れや自己成長の場を求める意識も背景にあると考えられる。
 - 【学年別】高校 3 年生で「就職先がない」77.8%が最も高く、進路選択期に現実的な職業環境を意識している様子がみられる。一方、高校 1 年生では「遊ぶ場所が少ない」61.5%など、日常的な不満が中心となっている。

総じて、若者の町外志向は「働く」「動く」「楽しむ」といった生活と成長の機会の不足に起因しており、これらを充実させることが将来的な定住促進の鍵となる。

- 若年層の定住促進のためにどのようなことが必要だと考えるか
 - 【年齢別】19 歳未満～30 歳代までの若年層では「働く場所の確保」(58.8%～72.1%)、「買い物の利便性」(50.2%～61.8%)が高い。40 歳代～60 歳代の中高年層では「働く場所の確保」(69.6%～81.9%)、「買い物の利便性」(45.0%～48.3%)、「医療機関の充実」(34.8%～35.9%)、「子育て支援や教育環境の充実」(32.3%～40.6%)が高くなっている。70 歳以上の高齢層では「働く場

所の確保」が 75.1%、「買い物の利便性」が 44.1%、「医療機関の充実」が 39.0%と高くなっている。

- 【定住意向別】「今の場所に住みたい」層では、「働く場所の確保」が 77.5%、「買い物の利便性」が 42.5%、「子育て支援や教育環境の充実」が 38.7%、「医療機関の充実」が 33.5%と高く、安定した生活基盤を求めている傾向がうかがえる。
 - 【定住意向別】「町外に移りたい」層では、「働く場所の確保」が 64.0%、「買い物の利便性」が 61.7%、「医療機関の充実」が 34.5%が高く、住みたいと回答した層と同様の回答傾向が見られる。
 - 【定住意向別】「どちらともいえない」層では、「働く場所の確保」が 71.6%、「買い物の利便性」が 51.8%と高く、住みたい、町外に移りたいと同様の回答傾向となっている。
- 全体的に「仕事・医療・買い物」が共通の重点ニーズがあり、世代を問わず安定した暮らしを重視する傾向が明確となっている。

➤ 今後、定住を促進するためにはどのような住宅施策が必要だと思うか

- 【年代別】10 歳代～20 歳代までの若年層で「移住・定住祝い金の対象を町民にも拡充」(37.9%～41.2%)が高い。30 歳代～60 歳代の中高年層では「空き家の利活用」(32.7%～41.8%)が高い。70 歳以上の高齢層でも「空き家の利活用」が 45.8%が最も高い。
- 【定住意向別】「今の場所に住みたい」層では、41.8%が「空き家の利活用」を希望している。
- 【定住意向別】「町外に移りたい」層では、「宅地分譲」が 12.1%、「町営住宅等賃貸住宅の整備」が 12.9%と、いずれも他の層よりも高く、住まいの確保が進めば、町にとどまる可能性があることがうかがえる。また、「移住・定住祝い金の対象を町民にも拡充」が 25.8%と比較的高く、経済的な支援があれば、町に住み続ける意向が高まる可能性も示唆されている。
- 【定住意向別】「どちらともいえない」層では、「空き家の利活用」が 35.3%と高く、住まい環境の改善が定住促進につながる可能性がある。

➤ あなたが希望する働く場所

- 【性別】男女で差がみられ、女性では 38.8%が町内就業を希望し、男性の 33.2%よりやや高く、女性の地元就業意識が強い傾向にある。一方、「どちらとも言えない」は男性が 37.3%、女性が 28.6%で男性の方が働く場所について判断が定まっていない傾向がみられる。
- 【年代別】年齢によって差がみられ、19 歳未満と 20 歳代では「町外で働きたい」がそれぞれ 44.1%、35.3%と高く、若年層の町外志向が際立っている。一方、40 歳代と 60 歳代は「身延町内で働きたい」がそれぞれ 40.1%、47.3%と 4 割以上となっている。

- 【定住意向別】「今の場所に住み続けたい」と「町内の別のところに移りたい」の町内での定住を希望する層では、どちらも4割以上が町内での就業を希望している。一方で「町外に移りたい」と回答したうち22.3%は、「身延町内で働きたい」としており、居住と就業の分離意識も一定数みられる。
- 子どもの将来の居住地について
- 【性別】女性の45.6%が「どちらでもよい」と回答しており、男性39.5%よりも柔軟な考えがやや多い。
 - 【年代別】「最低1人は住んでもらいたい」が40歳代、60歳代でそれぞれ1割以上、70歳以上では21.4%となっている。一方、19歳未満～60歳代では「どちらでもよい」が4割以上を占め、子どもに対する地元定住へのこだわりは比較的薄い。
 - 【定住意向別】「今の場所に住み続けたい」層では、「子ども全員が住んでもらいたい」と「最低1人は住んでもらいたい」を合わせた「子供に住んでもらいたい」とする割合が約3割となっている。これは、「町内の別のところに移りたい」「町外に移りたい」「どちらともいえない」がいずれも1割未満だったの対し、高くなっている。
- 乗合タクシーについて
- 【性別】女性の4.2%が「利用している」と回答しており、男性の2.2%をやや上回っている。
 - 【年代別】最も利用しているのは70歳以上だが、1割程度にとどまっている。一方、60歳代以下では2.9%以下と低い利用割合となっている。
- 現在どの程度幸せか
- 不幸（不満）を0点、とても幸せ（満足）を10点とする11段階評価で集計した結果は以下のとおり。
- 【性別】「とても幸せ」に値する「10点」「9点」の回答割合は、男性より女性のほうが高くなっている。
 - 【年齢別】19歳未満を除くすべての年代で幸福度は「5点」が最も多くなっているが、20歳代と70歳以上では幸福傾向である「8点」、30歳～50歳代はやや幸福を示す「7点」も多くなっている。
 - 【定住意向別】「今の場所に住み続けたい」層は幸福度が高い。一方、「町外に移りたい」と答えた層では「5点以下」が64.0%となっている。
 - 【高校生】平均点は男性が7.68、女性が7.14点と男性が高い。
 - 【学年別】平均点は1年生が7.56と最も高く、2年生が7.16点と最も低い。

- 住んでいる地域の暮らしにどの程度満足しているか
 - 【性別】男性平均が 5.46、女性平均が 5.62 と女性が高い。
 - 【年齢別】19 歳未満と 70 歳以上は平均が 6 点前後で満足度が高いが、20 歳代～50 歳代の働き盛り世代では全体平均の 5.55 を下回っている。
 - 【定住意向別】「町外に移りたい」層は平均 3.88 と低い。「今の場所に住み続けたい」層は平均 6.50 とやや高い。
 - 【高校生】男性平均が 6.44、女性平均が 6.16 と男性がやや高い。
 - 【学年別】1 年生平均が 6.44、2 年生平均が 6.16 で、全体平均の 6.18 より高い。一方、3 年生平均は 5.67 で全体平均より低くなっている。

- 身延町の人々は、大体においてどのくらい幸せだと思うか
 - 【性別】男性平均が 5.18、女性平均が 5.52 と女性がやや高い。
 - 【年齢別】では、19 歳未満と 60 歳代以上で幸福度が高く、30 歳代～50 歳代で平均以下となる。特に 70 歳以上では「7 点以上」が 28.9%と高い。
 - 【定住意向別】「町外に移りたい」層は平均点が 4.35 点と低い。
 - 【高校生】平均点が男性 5.81、女性 6.43 と女性が高い。
 - 【学年別】平均は 2 年生が 6.79 と全体平均の 6.19 より高い。3 年生は 5.70 と全体平均より低い。

- 身延町の現状の満足度と重要度について（一般）

（満足度・一般）

 - 【性別】全体には女性の方が満足度がやや高く、「防犯対策・治安のよさ」や「行政サービスのデジタル化」、「自慢できる都市景観」など、安心して暮らせる環境や行政の取組に対して評価が高い。一方、男性は「集落への愛着」や「他者を受け入れる雰囲気」で高く、地域とのつながりや人との関係を大切にしている傾向がある。
 - 【年齢別】「医療機関の充実」の満足度平均は、19 歳未満や 75 歳以上は 3 以上と高いが、他の年齢層は 3 点未満でやや低い傾向がみられる。最も低かったのは 30 歳代の 2.17 であった。「障がい者支援サービス」は、30 歳代～70 歳代前半までの年齢層において、全体平均の 2.91 を下回っている年代が多い。「買い物の利便性」は全体の満足度平均も 2.32 と低いが、20 歳代～40 歳代および 60 歳代前半では全体平均を下回る結果となっている。「公共交通機関での移動」は、全体平均が 2.03 と最も低い項目であるが、その中でも 20 歳代～60 歳代前半では平均 2.00 未満となっている。子育て関連は「妊娠・出産・育児の環境」では、50 歳代後半～70 歳代で全体平均 2.36 を下回っている。
 - 【定住意向別】「今の場所に住み続けたい」層の満足度平均は 3 点前後で高い傾向にある。一方、「町外に移りたい」層は 2.6 前後にとどまっている。「買い物の利便性」では、「住み続けたい」層は平均 2.60 であるのに対し、「町外に移りたい」層は平均 1.87 と差が大きい。「公共交通機関での移動」では、「住

「住み続けたい」層は平均 2.27 であるのに対し、「町外に移りたい」層は平均 1.59 と大きく下回っている。また、「やりたい仕事の見つけやすさ」では、「住み続けたい」層は平均 2.03、「町外に移りたい」層は平均 1.44 であり、町内定住意欲の有無が生活満足度に影響している傾向が読み取れる。

（重要度・一般）

「重要でない」を 1 点、「重要」を 5 点とする 5 段階評価で集計した結果は以下のとおり。

- 【性別】女性の方が全体的に重要度平均が高く、特に「医療機関の充実」、「買い物の利便性」、「公共交通機関での移動」、「妊娠・出産・育児の環境」「防犯対策・治安のよさ」など、生活の安全性や利便性への意識が強い傾向が見られる。
 - 【年齢別】「医療機関の充実」と「買い物の利便性」は 50 歳代～70 歳代の平均が高く、「防犯対策・治安のよさ」は 50 歳代以上が高い。
 - 【定住意向別】「今の場所に住み続けたい」層は全体的に重要度平均が高く、地域への定着意識が生活環境への関心を高めているといえる。
- 総じて、町民は日々の暮らしの安心を土台に、働く環境や地域の活力を重視している。

➤ 身延町の現状の満足度と重要度について（高校生）

（満足度・高校生）

不満を 1 点、満足度を 5 点とする 5 段階評価で集計した結果は以下のとおり。

- 【性別】「自慢できる都市景観」の満足度平均は女性が 3.68、男性が 3.17、「自宅近辺の騒音」は女性が 4.41、男性が 4.10、「公共施設の利便性」は女性が 3.02、男性が 2.74 で女性が高く、自然環境や生活環境、安全や移動のしやすさへの意識が強い傾向がある。
- 【学年別】学年が上がるに連れて「妊娠・出産・育児の環境」や「防犯対策・治安のよさ」への満足度が高まる一方、「学校の通学しやすさ」は低下しており、進路選択期に地域外への関心が強まる傾向もうかがえる。

（重要度・高校生）

- 【性別】女性の重要度平均が全項目でやや高めであり、特に「防犯対策・治安のよさ」、「学びたいことが学べる機会」、など、安全性や教育機会に関する意識が強い傾向がみられる。
- 【学年別】学年が上がるにつれて全体的に上昇しており、特に「防犯対策・治安のよさ」は、1 年生は 2.56 であるのに対し、3 年生は 2.78、「学びの機会」は 1 年生は 2.69 であるのに対し、3 年生は 2.81 など、地域の良さや教育環境の大切さを実感する傾向がみられる。